

県 外 派 遣 報 告 書

審判員名（報告者）	土屋 友由	所 属	社会人連盟
大会名	令和5年度関東高等学校男子バスケットボール大会 兼 第77回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会		
期 間	2023年 6月3日 ～ 4日（参加日：6月3日）		
会 場	アダストリアみとアリーナ		
ス ケ ジ ュ ー ル			
期 日	内 容	場 所	
6月1日	審判会議、研修会	ZOOM 会議 参加者自宅他	
6月3日	A,Bブロック 1・2回戦	アダストリアみとアリーナ	
6月4日	A,Bブロック 準決勝、決勝	アダストリアみとアリーナ	
審判会議、研修会 講義内容			
<p>●関東ブロック 平原審判長挨拶</p> <p>今大会は多くの S 級審判員が派遣されています。一緒に吹く方はぜひ色々なことを吸収してもらいたい。また決勝戦までと試合数も多いので、普段トップリーグを担当している方々がどのように判定しているのか見ていただき、研鑽を積んでいただければと思う。</p> <p>●審判研修会</p> <p>指名審判員：東京都 東祐二氏</p> <p>▶On the court で全てを出し切る為に～Output の重要性～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報を得ることは比較的容易な環境の中で、いかにして自分が持っている知識・情報を on the court で表現できるか。 ・『知っている』を『判定できる』まで持って行って欲しい。 ・単純に『知識』はテーブル上で会話のトッピングを増やすためではなく、自分自身が見たことのない／出会ったことのない ケースに対して on the court で（瞬時に）『決断する』ための材料にもらいたい。 <p>▶Out put の阻害要因</p> <p>外的要因 ・準備段階での不安（このレベルのゲームは初めて。） ・過去の経験からくる不安（苦手な選手やコーチ） など</p> <p>自分自身の内的要因 ・小さいことを気にしすぎる、強すぎるこだわり ・情報過多（知識が消化不良）</p> <p>・過緊張（体が硬直） など</p> <p>▶Out put を促進させるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身と余裕 ・勇気、『断固たる決意』 ・思いきり（≒開き直り） ・目の前のことに集中しているメンタル ・引き出しからスムーズに知識を取り出すための『ひらめき』『アイデア』など <p>▶長年、審判経験を積んできて、気合を入れると『笛（の音など）』は強くなるが、体が硬直するので、反応が悪くなる気がする。最終的には『<u>正しい判定をするための自分のスタイルを確立</u>』して欲しい。</p> <p>指名審判員：栃木県 増淵泰久氏</p> <p>▶審判後の振り返りに変化が出てきている。（映像を活用するようになった）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映像ではできないこと → 現場感、コミュニケーション、トップリーグと違う触れ合い など ・映像が抜群に効果を発揮すること → メカニクスの追求と使い方、プレゼンテーションの工夫 など <p>▶審判員として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個性、表現、考えの異なる人々が行なっている。 人と機械の違い、ON ⇔ OFF があることを理解しておく。 ・コロナ禍後の関東大会として、映像だけではなく生の声で振り返り・共有することで有意義な時間にしていきましょう。 			

指名審判員：栃木県 大山智史氏

▶A 級、S 級審判員の昇格に向けて（大山氏が実際に取り組んだ方法）

目標の設定と振り返り Bリーグで審判をしたいという目標を立て、1試合ごとの振り返りを大切にしました。見てくれている方々からアドバイスをもらうことが、成長の近道。試合を吹いたら、必ずメモを取るようになっている。

▶自分に教えてくれる人、ロールモデルになる人を見つける

一人の力ではなかなか成長できないので、自分の背丈に合った方とか、教えてくれる人を見つけてついていくことが成長の早道。

▶信頼とスケジュール

職場、家族、友人、生徒色々な方々との繋がり・信頼関係があって、早めにスケジュールを確保・調整していくことで審判活動がスムーズにできるようになると思う。審判やりたいけど、周囲の支えがないとできないので、出来なくならないように。

担当試合①

期 日	6月3日（土） Aブロック1回戦
対戦カード	土浦日本大学高等学校（茨城） vs 拓殖大学紅陵高等学校（千葉）
ク ル -	CC：東祐二氏（指名） U1：松永航平氏（東京） U2：土屋友由

ミーティング内容	審判主任：—
----------	--------

▶ゲーム前の PGC

- ・ベーシックなメカニクスは出来ている前提で、ポジションアジャストにこだわってほしい。
- ・CtoC は RUN にならないようにプレイにアジャストしてレフリングをしていく。
- ・そのほか、新ルール等について映像も交えながら確認を行なった。

▶ゲーム後のミーティング（CC：東氏より）

（クルーとして）大きなトラブルなく終わった中で、今後はプレイヤー個人のファウル個数、ゲームの流れ、時間帯にもう少し意識を置いて、コール or ノーコールが判定できるようになってくると、より良くなっていくと思うので意識してほしい。

（個人として）TO 管理はとても丁寧に来れているので継続して行ってほしい。加えて判定の中身としてセンタープレイヤー同士の整理（特にペイントエリア内）はリードだけでは手の掛け方など見えないものがあるので、トレイルから見えた時にアングルでコールする意識を持っておいて欲しい。

担当試合②

期 日	6月3日（土） Bブロック2回戦
対戦カード	湘南工科大学附属高等学校（神奈川） vs 保善高等学校（東京）
ク ル -	CC：齊藤貴嗣氏（東京） U1：土屋友由 U2：鳩貝翔太氏（茨城）

ミーティング内容	審判主任：増淵泰久氏（指名）
----------	----------------

▶ゲーム後のミーティング（クルー全体）

- ・オールコートプレスに対して、ボールサイドのハーフライン辺りで起きるダブルチームなどに対して、センターが協力しても良い場面があった。エンドラインからロングパスでハーフコート付近までボールが飛ぶとトレイルだけでは判定が難しいので、センターが残っていてプレーを見てほしい。
- ・エッジでのショットに対して、リードが見ないという意思表示を身体で示すのは良いことであるが、2or3 だけでも見てほしい。もしかしたらトレイルの目の前で選手が被ってしまって、シューターのつま先が確認できないことがあるので、リードが開くのが遅れてやペイントを厚く見たくてエッジを見ないのは分かるが、ショットのピークだけでも協力する意識を持ってほしい。

▶ゲーム後のミーティング（個人として）

- ・プレゼンテーションの工夫
- ・センターでボールをチェックインした時に角度を少しつけてポジションを1歩2歩あげた方がその後のプレーをよりクリーンに見えることがあるので、工夫してほしい。

全体の感想

昨年度まで A 級審査会への推薦で参加させていただいておりました関東男子に今回、昇格して初めて参加できたこと、本当に嬉しく思います。今大会よりコロナ禍以前の大会フォーマットに戻り、担当試合数も 1 日で 2 試合タフなゲームを割り当ていただきましたが、2 試合ともに現状の実力は出しつつも、また新たな課題を感じた試合でした。また今大会では多くの派遣審判員の皆様と試合を観戦しながら、レフリング向上のための考え方やポジションアジャスト、スカウティング方法などオンザコート以外での気づきや学びも多く、コロナ禍で出来ていなかった一緒に試合を見て感じる事が出来たのも非常に有意義な時間でした。今大会で得た気づきや学びをしっかりと自身の審判技術向上に活かすとともに、県内の皆様にも還元できるようまた精進していきたいと思ひます。

最後になりましたが、大会期間前から準備いただき、大会期間中も細部までお気遣いいただきました茨城県バスケットボール協会の皆様をはじめ、関東ブロック審判長 平原様、講義をご担当いただきました指名審判員の東様、増淵様、大山様、そして割当クルー及び大会期間中にお世話になりました TO 役員他大会関係者全ての皆様に改めて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。引き続きご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。